

宮古市中央通商店街

(宮古市中央通商店街振興組合)

岩手県宮古市

インバウンド

地域協働

新陳代謝

生産性向上

ポイント

商店街の女性グループや地元ボランティアによる「花香る散策路」事業で地域コミュニティが深化。取組を通して地域の防災意識も向上。

基本データ

所在地	岩手県宮古市向町
人口	約5万人(宮古市)
電話/FAX	0193-63-5635 / 0193-63-5635
会員数	40名
店舗数	42店舗(小売業20店、飲食業6店、サービス業7店、金融業1店、不動産業4店、その他4店)
商店街の類型	生活支援型
主な客層	高齢者、主婦/60歳代、70歳代以上

商店街概要

宮古駅から市役所に向かう1kmほどにある宮古市中央通商店街。国道106号線が整備され、近い将来盛岡までのアクセスが大幅に改善される予定だが、消費流入以上に流出の懸念がある。一方で、平成30年6月には宮古と北海道室蘭市とのフェリー定期便が就航予定で、商店街への観光客増加が見込まれている。

市の人口は減少しているが、世帯数は増加しており、商店街内及びその周辺に災害公営住宅や新築アパートが竣工している。しかし、商店街に隣接する市役所庁舎が平成30年度に宮古駅前に移転することが決定しており、移転後の導線を含めた影響が推測できない状況にある。

取組の背景

災害の復旧支援で交流が広がった

宮古市中央通商店街は、老舗や人気店のほか、銀行やFCチェーンも比較的多い商店街であった。平成23年3月に発生した東日本大震災を経て現在は、災害公営住宅や食品スーパーのオープンなどによって空き店舗は減少、通行量も回復傾向にあるが、空き地が増え、商店街としての連続性を保つことが難しくなりつつあった。

また、平成28年8月下旬に発生した台風10号で商店街は再び水没し、甚大な被害を被った。

このような度重なる災害にも負けず、商店街では、女性組合員を中心に朝会議などに取り組み、様々なアイデアを活発に提案している。また、大津波や台風災害の際に市内外から復旧の支援を受けたことで、様々な交流も広がりつつあった。

取組の内容

「花香る散策路」で新たなコミュニティ形成

災害からの復活活動として平成27年度から再び注力している「花香る散策路」事業は、塩害により一時は壊滅状態であった植栽を商店街の女性グループが中心となって地元ボランティアらとともに復旧する事業である。

地元ボランティアは「植栽サポーター」として活動し、街区にできた復興住宅の住民と旧住民との

交流を図るためのセミナーなども開催している。



植栽活動の様子

さらに、平成29年度は、これまでの復興活動からさらなる発展に向かうため、災害からの復旧復興過程で培われた絆や防災意識をさらに深化させるとともに、賑わいも醸成させることを目的に、花の香りがするアロマキャンドル・ポタニカルキャンドルを市民と一緒にワークショップ形式で製作。

これらのキャンドルを「キャンドルストリート」として冬枯れ時の日没後に灯すことで、常時花の香りに包まれた「花香る散策路」となり、商店街の認知度向上につながった。また、この活動では、植栽活動で育てたラベンダーを乾燥させたドライフラワーを材料とすることで、キャンドルに愛着を持ってもらい、発災時における停電の際に欠かせない防災グッズとしての活用と防災意識の啓発にもつなげた。

これらの取組により、震災前よりも商店街と地域住民とのコミュニティが深化しており、商店街を軸とした新たな地域コミュニティが形成されつつある。



キャンドルづくりワークショップ



キャンドルストリート

取組の成果

キャンドルストリートを毎年恒例の行事に

キャンドルづくりなどのワークショップでは、参加人数の目標を100名としていたところ、約250名の参加を得た。終了後のヒアリング調査でも、「今後も継続してほしい」「子どもと一緒に参加できたことに意義があった」などと高評価だ。

また、この取組を通して、組合員は商店街活動の周知の重要性を認識。現在は、SNSで告知をするなど広報活動にも力を入れるようになった。目標としていたフォロワー数(300名)も達成した(平成29年11月16日時点)。

「キャンドルストリート」は、3日間、各日400個ずつ点灯したが、告知効果もあり若年層など新たな客層の獲得につながった。開催中は、来場者が写真撮影をする際の安全を強化するため、組合員が毎回検討しながらレイアウトを変更していくなど工夫を重ねた。

商店街としては、毎年恒例の行事にしたいと考えており、今回のノウハウを活かしながら、無理なく持続していくため、希望者へのキャンドル販売を開始するなどの検討が進められている。

実施体制

「花香る散策路」事業の実行主体は、組合内に設置した「絆と安全・中央通四季折々プロジェクトチーム」。全体統括は理事長の黒田氏で、チームリーダーの専務理事佐藤氏をはじめ、事務局、キャンドルづくりリーダーのほか、チームメンバー6名の計10名から構成されている。

さらに、植栽サポーター(10名)のほか、市や周辺自治会等とも協力体制を構築しながら事業を推進している。

キーパーソンからのコメント



宮古市中央通商店街振興組
理事長 黒田 豊 (左上)
専務理事 佐藤 功 (右上)
女性グループみずき会代表
吉田 育子 (左下)
事務局 坂本 智子 (右下)

災害を乗り越えて

近年は不景気もあり商店街の活気もなく低迷期にありましたが、それに追い打ちをかけたのが平成23年の東日本大震災でした。

多くの店舗が解体され、他の地区へ移転した店もありました。

このままでは商店街活動もできないと一旦は解散も考えましたが、株式会社全国商店街支援センターのご支援、ご指導を受け組合を存続することに。そこで立ち上がったのが女性たちでした。

市民の皆様と共に

震災後、生業も回復しない中、全国からの支援で震災前も整備していた植栽を復活することができ、それをきっかけに花を前面に押し出した商店街作りを始めました。市民協働で植栽活動をしたり咲いた花を摘んでポプリにし皆様にお分けしたり、ポプリを入れたキャンドルを作ったり。お客様と共に楽しめる街づくりを心掛けました。

今では、若者も集う街になりつつあります。これからも地域と共に歩んでいきたいと思っています。